



## 2020年1月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年6月14日

上場会社名 オース株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9637 URL <http://www.osgroup.co.jp>  
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 高橋 秀一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 森口 武士 (TEL) 06-6361-3554  
 四半期報告書提出予定日 2019年6月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2020年1月期第1四半期の連結業績(2019年2月1日~2019年4月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年1月期第1四半期	2,190	29.5	237	55.7	220	75.6	147	82.1
2019年1月期第1四半期	1,691	△9.6	152	△42.6	125	△46.3	81	△49.2

(注) 包括利益 2020年1月期第1四半期 160百万円(101.6%) 2019年1月期第1四半期 79百万円(△46.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年1月期第1四半期	46.70	—
2019年1月期第1四半期	25.64	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年1月期第1四半期	29,532	10,130	34.3
2019年1月期	30,396	10,009	32.9

(参考) 自己資本 2020年1月期第1四半期 10,130百万円 2019年1月期 10,009百万円

※「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年1月期	—	12.50	—	12.50	25.00
2020年1月期	—	—	—	—	—
2020年1月期(予想)	—	12.50	—	12.50	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2020年1月期の連結業績予想(2019年2月1日~2020年1月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	8,300	△2.2	650	△18.7	570	△23.9	370	△13.3

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2020年1月期1Q	3,200,000株	2019年1月期	3,200,000株
2020年1月期1Q	34,036株	2019年1月期	34,036株
2020年1月期1Q	3,165,964株	2019年1月期1Q	3,166,012株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2019年2月1日～2019年4月30日)におけるわが国経済は、堅調な企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、通商問題の動向や海外経済の不確実性による影響も懸念され、先行き不透明な状況が継続しております。

このような経済環境のなか、当社グループは、新たな中期経営計画を策定し、持続的成長を可能とする組織・事業・収益構造の確立に向け取り組んでまいりました。

当第1四半期連結累計期間の成績は、売上高は2,190,845千円と前年同期に比べ499,341千円(29.5%)の増収となり、営業利益は237,137千円と前年同期に比べ84,867千円の増益、経常利益は220,109千円と前年同期に比べ94,752千円の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は147,857千円と、前年同期に比べ66,677千円の増益となりました。

経営成績をセグメント別で見ると次のとおりであります。

#### (映画事業)

映画事業におきましては、邦画作品では「マスカレード・ホテル」「映画ドラえもん のび太の月面探査記」「名探偵コナン 紺青の拳(フィスト)」、洋画作品では「ボヘミアン・ラブソディ」「グリーンブック」「キャプテン・マーベル」などの話題作を上映いたしました。

また、スクリーンやロビースペースでの着ぐるみイベントや「ボヘミアン・ラブソディ」の応援上映、さらには、SNSを活用したキャンペーンを実施し話題づくりに努めるとともに、演劇公演やコンサートなど多種多様なコンテンツのライブ中継や活弁士とピアニストによる活弁上演会の定期公演を実施するなど、新たな顧客の開拓に取り組んでまいりました。

売上高は810,553千円と前年同期に比べ60,741千円(8.1%)の増収となり、セグメント利益(営業利益)は69,146千円と前年同期に比べ15,124千円の増益となりました。

#### (不動産賃貸・販売事業)

不動産賃貸業界におけるオフィスビル市況は、東京都心5区、大阪ビジネス地区ともに空室率は低水準で推移し、賃料水準につきましても上昇基調を維持しております。

このような状況のなか、不動産賃貸事業におきましては、「OSビル」空調更新工事を実施し、快適な環境づくりに努め、エネルギー性能の効率化にも取り組んでまいりました。

また、昨年リニューアル工事を行った「OSビル」1階都島通り沿いの「OS広場」において、企業プロモーションや賑わいを創出するイベントを誘致し、緑豊かな憩いのスペースとして地域に愛される空間づくりを行っております。当第1四半期連結累計期間末における直接保有ビルの稼働率は100%と満室稼働となりました。

不動産販売業界における分譲マンション市況は、住宅ローンが低金利で推移していることから消費者の取得意欲は高いものの、用地代や建築費の高騰により販売価格は高止まりの状況が継続し、利便性や希少性の高い物件が選ばれる傾向にあります。

このような状況のなか、不動産販売事業におきましては、分譲マンション「プレジリア逆瀬川宝梅 ザ・レジデンス」(宝塚市)及び「プレジリア西田辺」(大阪市阿倍野区)の販売活動に取り組んでまいりました。なお、本年4月、「プレジリア西田辺」は全戸成約いたしました。「プレジリア逆瀬川宝梅 ザ・レジデンス」につきましても、早期完売に向け鋭意取り組んでまいります。

また、取得済みの開発用地につきましても、事業化に向け準備を進めております。

売上高は1,273,347千円と前年同期に比べ553,635千円(76.9%)の増収となり、セグメント利益(営業利益)は358,746千円と前年同期に比べ100,506千円の増益となりました。

#### (飲食事業)

飲食業界は、個人消費に改善の動きがみられるものの、原材料価格の高騰に加え、慢性的な労働力不足や人件費の上昇など、厳しい経営環境が継続しております。

このような状況のなか、飲食事業におきましては、運営の効率化を推進するとともに諸経費の削減に取り組み、収益力の向上に努めてまいりました。なお、阪急神戸三宮駅高架下リニューアル工事に伴い、本年2月、「串かつおおえす 三宮店」を閉店いたしました。

三宮地区における複数店舗閉店の影響により、売上高は62,030千円と前年同期に比べ27,505千円(30.7%)の減収となり、セグメント損失(営業損失)は5,221千円と前年同期に比べ11,835千円の減益となりました。

(その他事業)

その他事業におきましては、アミューズメント施設「n a m c o三宮店」の売上を計上しております。なお、阪急神戸三宮駅高架下リニューアル工事に伴い、本年3月、「n a m c o三宮店」を閉店いたしました。

売上高は44,913千円と前年同期に比べ87,529千円(66.1%)の減収となり、セグメント利益(営業利益)は2,076千円と前年同期に比べ20,706千円の減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、前連結会計年度末と比較して総資産は863,597千円の減少となりました。これは主に現金及び預金419,515千円及び販売用不動産380,825千円の減少によるものであります。

負債につきましては984,700千円の減少となりました。これは主に買掛金480,358千円、短期借入金297,840千円及び長期借入金267,470千円の減少によるものであります。

純資産につきましては121,102千円の増加となりました。これは主に利益剰余金108,282千円の増加によるものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較を行っております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年1月期の連結業績予想につきましては、2019年3月15日の決算短信で発表しました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,514,932	1,095,417
売掛金	295,831	338,944
販売用不動産	2,927,449	2,546,624
商品	10,525	12,767
貯蔵品	9,742	24,467
前払費用	85,804	110,553
その他	240,322	145,833
貸倒引当金	△7,383	△7,383
流動資産合計	5,077,225	4,267,223
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	19,070,874	18,869,557
減価償却累計額	△10,598,449	△10,513,914
建物及び構築物(純額)	8,472,425	8,355,643
機械装置及び運搬具	292,777	292,777
減価償却累計額	△166,296	△172,646
機械装置及び運搬具(純額)	126,481	120,130
工具、器具及び備品	730,407	695,742
減価償却累計額	△610,166	△584,795
工具、器具及び備品(純額)	120,240	110,946
土地	12,895,462	12,895,462
信託建物	595,488	595,896
減価償却累計額	△139,983	△149,414
信託建物(純額)	455,504	446,482
信託土地	1,812,608	1,812,608
建設仮勘定	-	88,560
有形固定資産合計	23,882,722	23,829,833
無形固定資産		
ソフトウェア	42,027	34,766
その他	763	750
無形固定資産合計	42,790	35,516
投資その他の資産		
投資有価証券	392,658	411,085
長期前払費用	103,675	98,377
差入保証金	571,459	573,959
建設協力金	295,083	284,115
繰延税金資産	18,084	20,901
その他	8,420	8,420
投資その他の資産合計	1,389,381	1,396,860
固定資産合計	25,314,894	25,262,211
繰延資産		
社債発行費	4,254	3,341
繰延資産合計	4,254	3,341
資産合計	30,396,374	29,532,776

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年4月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	729,555	249,196
短期借入金	3,023,260	2,725,420
1年内償還予定の社債	500,000	500,000
未払金	67,644	64,985
未払費用	285,285	234,199
未払法人税等	35,119	50,172
未払消費税等	17,814	71,819
賞与引当金	31,034	70,727
資産除去債務	110,144	66,754
その他	288,721	307,249
流動負債合計	5,088,579	4,340,525
固定負債		
社債	500,000	500,000
長期借入金	9,904,360	9,636,890
長期預り保証金	1,956,067	1,961,149
繰延税金負債	870,036	892,818
再評価に係る繰延税金負債	1,674,048	1,674,048
退職給付に係る負債	393,410	396,371
固定負債合計	15,297,923	15,061,277
負債合計	20,386,503	19,401,803
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	800,000	800,000
資本剰余金	66,507	66,507
利益剰余金	6,326,770	6,435,053
自己株式	△106,236	△106,236
株主資本合計	7,087,040	7,195,323
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	131,066	143,886
土地再評価差額金	2,791,763	2,791,763
その他の包括利益累計額合計	2,922,830	2,935,649
純資産合計	10,009,870	10,130,973
負債純資産合計	30,396,374	29,532,776

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年2月1日 至2018年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年2月1日 至2019年4月30日)
売上高	1,691,504	2,190,845
売上原価	1,327,123	1,743,072
売上総利益	364,380	447,772
一般管理費	212,110	210,635
営業利益	152,269	237,137
営業外収益		
受取利息	2,190	1,949
受取配当金	419	446
匿名組合投資利益	-	2,876
その他	813	1,268
営業外収益合計	3,423	6,541
営業外費用		
支払利息	25,096	21,272
その他	5,239	2,296
営業外費用合計	30,336	23,569
経常利益	125,356	220,109
特別利益		
補助金収入	10,000	-
特別利益合計	10,000	-
特別損失		
固定資産除却損	3,832	0
固定資産圧縮損	10,000	-
特別損失合計	13,832	0
税金等調整前四半期純利益	121,524	220,109
法人税、住民税及び事業税	39,869	57,939
法人税等調整額	474	14,311
法人税等合計	40,344	72,251
四半期純利益	81,179	147,857
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	81,179	147,857



四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年2月1日 至 2018年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年4月30日)
四半期純利益	81,179	147,857
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,480	12,819
その他の包括利益合計	△1,480	12,819
四半期包括利益	79,699	160,676
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	79,699	160,676
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自2018年2月1日至2018年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	映画事業	不動産賃貸・販売事業	飲食事業	その他事業	計	調整額(注1)	四半期連結損益計算書計上額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	749,812	719,712	89,536	132,443	1,691,504	—	1,691,504
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	34,107	—	—	34,107	△34,107	—
計	749,812	753,819	89,536	132,443	1,725,611	△34,107	1,691,504
セグメント利益	54,022	258,240	6,613	22,783	341,659	△189,390	152,269

(注) 1. セグメント利益の調整額△189,390千円には、セグメント間取引消去△952千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△188,437千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2019年2月1日至2019年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	映画事業	不動産賃貸・販売事業	飲食事業	その他事業(注3)	計	調整額(注1)	四半期連結損益計算書計上額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	810,553	1,273,347	62,030	44,913	2,190,845	—	2,190,845
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	9,569	—	—	9,569	△9,569	—
計	810,553	1,282,916	62,030	44,913	2,200,415	△9,569	2,190,845
セグメント利益又は損失(△)	69,146	358,746	△5,221	2,076	424,748	△187,611	237,137

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△187,611千円には、セグメント間取引消去△1,351千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△186,259千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「その他事業」に属しておりますn a m c o三宮店は、2019年3月3日をもって営業を終了しております。